

1) 楽譜の改定作業

どのような音楽の作曲も、作曲の実際の作業にあたっては、イメージした音楽を、「楽譜」としてどのように記すべきかという課題を抱えている。演奏者に伝えるための記譜の方法の検討である。現代のように様々な楽曲様式、演奏様式が混在し併存している状況下では、音楽の演奏法を伝え、且つその示す世界も表わすことの出来る「楽譜」というものを、作曲家はいつも模索し検討せねばならない。クラシック音楽のように、音楽の傾向や様式がある程度一定しており、同様に楽譜作成としての記譜法もほぼ一律で事足りた。今回の作品は、主たる部分の音楽は断片的に発想したものの連続であり、時間軸上の指示において、従来の記譜法による拍子、拍、テンポの指示を踏襲する必要がなく、それらに捉われず自由に演奏してもらいたかったのである。そのため、メイン・パートとなる第2部分では、1～8秒ほどの時間の枠組みを記し、その中で、音符の記された位置の視覚的配置だけを頼りに弾いてもらうという記譜法とした。また、第1部分と第5部分では1秒ごとにメモリを振った楽譜を使用した。

しかし今回は、こういった幾分新しい自由な記譜法を、従来の記譜法に戻して全面的に書き改めた。その理由は、やはり演奏家は従来の記譜に習熟しており、余程強い意義がない限り、通常の記譜法に則って書くべきであると考えたことと、演奏の精度を上げていく際に、通常の記譜法の方が、目標が設定しやすと考えられることからである（添付譜例参照）。

2) 演奏リハーサル

演奏者は、2023年初頭より修練に入り、現在まで本研究者の3回の立ち合いによるリハーサルを行っている。25分という長丁場の音楽である点が、演奏家にとっては大変大きな負担となるものである。著名な、ピアノ・ソナタ楽曲で最も長大なものは、ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven 1770-1827)の第29番変ロ長調(作品106)「ハンマークラヴィア(Hammerklavier)」の40分弱であるが、こちらは4つの楽章に分かれたものである。分割されないソナタで最も長大なものは、リスト(Franz Liszt 1811-86)の「ソナタ」ロ短調で、こちらは25分を要する。現代音楽のソナタでは、ブーレーズ(Pierre Boulez 1925-2016)の第2番が4つの楽章から成る27分である。これらを鑑みると、一応5つに分割されるとはいえ、楽章としては単一である本ソナタは、相当に長大な部類のものといえる。

音楽様式としては、基本には20世紀の前衛を受け継いだ無定形主義(Amorphism)であるため、反復が少なく、20分を超える時間演奏者は、次々現れる新しい音楽を弾き続けることになる。こちらも大変な労力を要するところであるが、25年前に演奏した折よりは、遙かに余裕のある取り組みで表現も落ち着いたものとなってきている。

この度、上述のように通常の記譜法に全面的に変更した訳だが、ある部分では、この正確に記された拍に捉われることが、かえって不自由さと拍を守らなければならないという負担が生じる、という指摘が演奏者よりあり、その部分に関しては自由に弾いてよいということとした。これはどの音楽も究極の形はそのようであると思うが、楽譜によって音楽の形を示しつつ、十分に理解された暁には楽譜に捉われず自由に演奏されてしかるべきものである。

現在は、5月20日の演奏会と、その後の録音に向けて修練を行っている。

上は 25 年前の旧版、下は今回書き改めた版。同じ音楽である。

旧版

(♩ = 60)
Ca. 4" Ca. 2"

Handwritten musical score for the old edition. It features a treble and bass clef staff with a common time signature. The tempo is marked as $\text{♩} = 60$. The score is divided into two sections: the first section is marked "Ca. 4\"" and includes an "accel." marking and a "3" triplet; the second section is marked "Ca. 2\"" and includes "(a Tempo)". Dynamics include "mf cresc" and "fff".

Ca. 5"

Handwritten musical score for the old edition, continuing from the previous section. It features a treble and bass clef staff. The tempo is marked as "Ca. 5\"". Dynamics include "fff" and "sfz". The score includes a large fermata over a note in the treble clef and a "5" measure bracket in the bass clef.

新版

Energico con fuoco e tempo rubato
Lento $\text{♩} = 30$ agitato
cantabile
mf cresc. fff
Ped. * Ped. * Ped. * Ped. * Ped. * Ped. *

Lento $\text{♩} = 42$
Ped. *

Allegro $\text{♩} = 112$
meno mosso *sfz* a tempo
mf
Ped. * Ped. *

Handwritten musical score for the new edition. It features a treble and bass clef staff. The tempo is marked as "Lento $\text{♩} = 30$ agitato". The score includes a multi-measure rest of 18 measures in the bass clef. Dynamics include "cantabile", "mf cresc.", and "fff". Pedal markings are present: "Ped. * Ped. * Ped. * Ped. * Ped. * Ped. *".

The second section is marked "Lento $\text{♩} = 42$ " and includes a multi-measure rest of 4 measures in the bass clef. Pedal marking: "Ped. *".

The third section is marked "Allegro $\text{♩} = 112$ " and includes a multi-measure rest of 5 measures in the bass clef. Dynamics include "mf" and "sfz". The tempo is marked "meno mosso" and "a tempo". Pedal markings: "Ped. * Ped. *".